

AMERICAN LIFE



Thanksgiving

Chicago

Detroit

CampusLife

授業の改善

11 月日記





Thanksgiving

11月24日はサンクスギビングデーで、それに伴い11月23日から27日は5連休。アメリカの学生は実家に帰省し、美味しい手料理を食べ、ブラックフライデーで買い物を楽しみ、あとはひたすら家族とリラックスしていたようだ。

CHICAGO

5連休前半はクラスメイトの女子5人でシカゴへ。日本人3人、ベトナム人1人、インド人1人だ。フィンドレーからトレドまでは個人タクシー、トレドからシカゴはバスを利用し、片道が約60ドル。6時間の移動はキツかったが、飛行機よりも断然安いので短期休みでのシカゴはおすすめ。

Transportation

シカゴ市内にはバス・地下鉄がたくさん通っており、移動には困らない。アプリから電子チケットを買くと切符より安く、1回の乗車は2.25\$。1日乗り放題もあるので旅のプランに合わせて購入できる。バスも地下鉄も遅れがちなので時刻表は当てにならない。



11/23

23:00 ころ到着し、地下鉄でホテルまで移動。今回は5人で移動したため、夜の地下鉄でも危険性を感じなかった。ホテルに着き、みんな疲れて就寝しようとしていたが、インドの子がビデオ通話を始め、なかなか寝付けなかった。

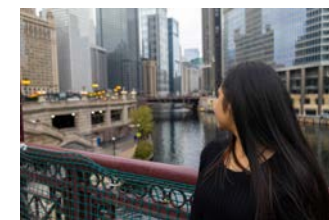
11/24

STARBUCKS RESERVE ROASTERY CHICAGO にて朝食。このスタバはメニューがなく、注文が難しかった。とても美味しかったが、チーズケーキとドリンク1杯を注文し、計18ドル…豪華な朝食だ。

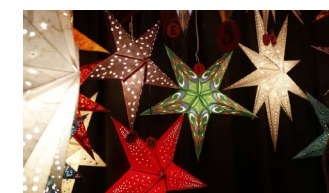


サンクスギビングパレードをみたあと、ダウントウンを散策。クラウドゲートのあるミレニウムパークやシカゴ建築の見える橋などへ行き、写真撮影。ここでも文化の違いを感じた。日本人はスマイル&ピース、ベトナムの子は「behind me」と指示し、よくわからなかったが彼女が歩く様子を後ろからひたすら連

写するのがベトナム流。インドの子は写真にかける熱量がとてつもない。ポーズ、角度、全身と上半身など、こだわりがすごい。何十枚か撮って「これでいい？」と確認しても、何か違うようで撮り直した。



他の子はみんな次の場所に行きたそうで、でもそれが言えず、困惑していた（笑）。さらにインドの子は他の観光客にも撮影をお願いし、撮り直しをさせていた。その観光客も最後は逃げるように去っていった（笑）。写真の文化の違いは新たな発見だった。



クリスマスマーケットやチャイナタウンを回った後、夜は念願のシカゴピザ。チーズたっぷり、1切れが大きい。歩き回ってみんな疲れていたが、このピザを見て笑顔になった。一番大きなサイズを頼み5人で割り勘したため、とても安かった。ワイン1杯とピザ2切れで13ドル。もしシカゴに行くなら是非食べて欲しい。

この日は疲れたため早めにホテルに戻り、お話をした。授業外で話すことがなかったので、みんなの知らない部分が出てよかった。ただずっと英語を使っていたため脳が疲れた。



11/25

25日はブラックフライデーで、買い物をしに街へ。9:30 出発予定が、まさかの9:30 にシャワーを浴びに行ったインド人。時間のルーズさも文化の違いといえそうですが、みんなを待たせているという状況で、ストレスになった。

いくつか大きなモールを回ったが、ほとんどノーマルプライスで大して安くなっていなかった…先生からブラックフライデーは安いと聞いていたのでがっかりした。それでも店内を見て回るだけで楽しかった。

夕方、私以外の4人は先にフィンドレーへ帰っていった。ホテルで見送る際、「バスの出発時刻までギリギリだから急いでね。」と伝えたはずなのに、数分後「バス停まで行く電車を逃した。」とLINEが届いた。さらに「誰も焦ろうとしないし、調べようもしない。」と…3日間の旅で他の人が楽観的かつ、マイペースすぎたため、なんとなく想像がついた。結果的には間に合ったから良かったが、もし日本人がいなかったらバス代を無駄にしていただろう。

クラスメイトとシカゴの旅を終え、各国の人柄の違いを知った。日本人に比べて、謙虚という概念がほぼないインド人。人のことを考えていないわけではない。家族を大切にし、私たちのことも考えてくれていた。自分も楽しみたいし、みんなにも楽しんでもらいたい、といったようなことだろう。ベトナムの子はジョークをよく言うが、時々本気なのかかわからない。日本ではありえなくても、他国では普通。これを受け入れるべきなのか、受け入れ難い時に話して合っているものなのか…初めてのことで分らなかった。留学でできた友達との旅行は楽しかったが、気疲れした。これも経験だとしよう(笑)



皆が帰った後、有名建築を巡った。授業で習った建物が多く、建築学生はシカゴの街を歩いているだけで面白いと思う。その後、ミレニウムパークへいき合唱を観覧。歌詞カードが配られ、市民や観光客と共にクリスマスソングを歌った。幸せな時間を共有でき暖かい気持ちになった。





Detroit

11/26

深夜バスにてシカゴからデトロイトまで移動。1時間に1回の乗り降りで電気がつくため、寝られなかった。デトロイトでは"Couchsurfing"というアプリで宿泊先を確保した。朝6:00に着き、ホストが迎えに来るのを待つ



た。バス停からダウンタウンまで歩いたが、誰もいないし、看板は壊れ、不気味であった。今回初めて Couchsurfing を利用し、果たしてホストが迎えに来てくれるのか、突然受け入れをキャンセルされるのではないかと不安だった。しかし、夜勤明けのホストの夫 (Sさん) が笑顔で迎えに来てくれ、安心した。ホストの家はデトロイト中心部から車で30分。バスだと1時間30分かかるため、送り迎えを何度もしてくださった優しいホストだった。



一度、ホストの家へ荷物を置き、再びダウンタウンへ。妻のEさんとイースタンマーケットへ買い物に行った。ミシガンで採れた野菜やみたことのない穀物をEさんが説明してくれた。また、おすすめのドレッシングやポップコーンを教えてくれたりと、地元の人ならではの情報をたくさん教えてくれた。



時期的にクリスマスツリーを買いにくるお客さんで賑わっており、買ったツリーを車の屋根に括り付けて持って帰る様子は衝撃だった。市場はとても広く、全て回するには時間がかかる。14:00には閉まってしまうため早めに来ることをおすすめする。

その後ダウンタウンを案内してもらい、カナダとの国境線であるデトロイト川で一度お別れした。対岸にカナダ人が歩いている様子が見え、近いのに簡単には行くことができない違う国というのが不思議な感覚であった。

Couchsurfingとは

安く泊まりたい旅人と、旅人と交流したいホストのコミュニティーアプリである。出会いの目的で利用している人もいるが、実際に泊まった人からの口コミをよく読めば危険な目に遭わない。ホテルと違い、旅行先で地元の人とコミュニケーションができるのが大きな魅力である。



デトロイトにはたくさんのウォールアートや、フリーの作業場があり、空きスペースや荒廃を生かしていた。Eさんいわく、人口減少で一番危険な町と言われていたデトロイトだが、デトロイト市から芸術家に依頼してアートを増やしたところ、新たな芸術家たちが引っ越して来ているそう。日本では消されてしまいがちなウォールアートだが、町の活性化に利用するアイデアは他のまちづくりでも活かそうと感じた。



しかし、人が戻ってきてるとはいえ、ダウNTOWN郊外に出るとライトは少ないし、車通りも少ない。建物は廃れ、ホームレスや危ない人が隠れて住んでいるかもしれないという危険を感じた。日没後に郊外のウォールアートがたくさん書かれた場所へ訪れると、ウォールアート＝悪という固定概念と暗さが相まって寒気が止まらなかった。1人でデトロイトに行くときはダウNTOWNだけで過ごした方がいいと思う。

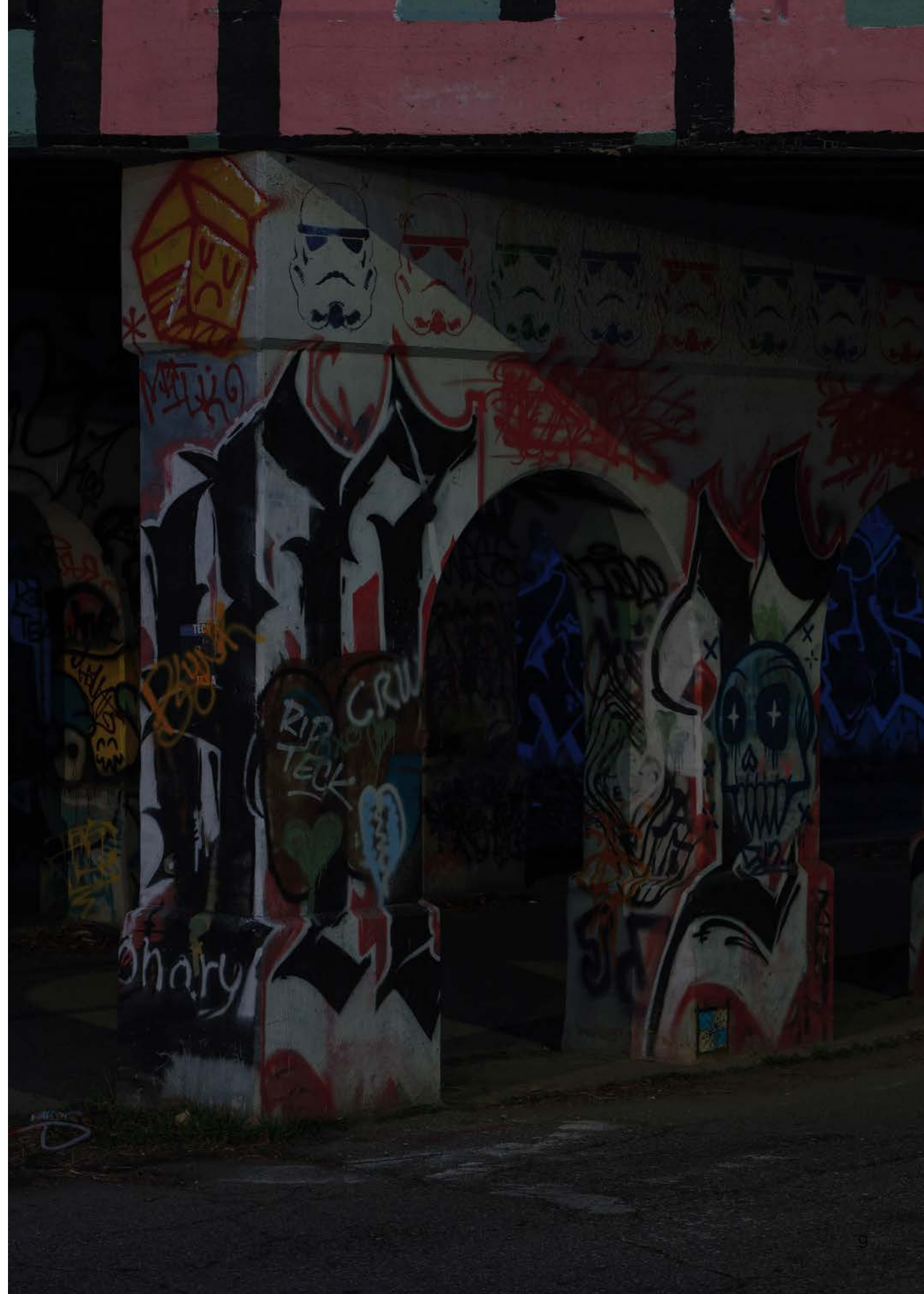


一通りデトロイト市内をみたあと、再び迎えに来てくれた。イースタンマーケットで買ったスパゲッティスクワッシュを使って夕飯を作ってくれた。Eさんは世界50カ国以上旅したことがあるらしく、話題が尽きなかった。

11/27

Eさんとヘンリーフォード博物館へ。博物館は迷路のように広く、車や飛行機、電車などたくさんの展示物が置いてあった。Eさんが説明してくれたため、理解しながら楽しめた。英語での説明を1つ1つ読んでいたら時間がかかっていただろう。

午後、休息をとりSさんがダウNTOWNのバス停まで送ってくれた。Sさんは夜勤週間で、日中話せなかったが、送り迎えの際に色々お話しできた。寮生活では聞けなかったお話ばかりでとても素敵な出会いでした。



November diary

授業

11月に入り慣れてきたから、クラスメイトみんなが疲れていた。先生たちが何を聞いても無反応で、先生たちも怒り半分、呆れ半分のようだった。

まずリーディング。先生はダンスや歌で盛り上げようとしてくれたが、私はとにかくリーディングがしたかったのでそのようなことにはやる気が起きなかった。先生も困り果て、授業方針について匿名アンケートをとった。その後、より難しいリーディングを用意してくれたり、グループでわざわざ時間かけて解く必要の

ない問題は個人作業にしてくれたり、より良い授業を提供してくれた。

そしてリスニング。リスニングの先生は授業をするというより、ただおしゃべりして終わる日もあった。けど、英語学習にはなっているので嫌ではなかった。しかし、20分で授業が終わったり、疲れているように見えるから今日の授業は無しということが続いた。高い学費を払っているのに授業をしてくれないかと抗議した。先生の言い分は「みんなのやる気がないから早く終わらせてる。帰りたい人は帰ればいい。残りたい人は残ればいい。」とのこと。

私は「帰ってもいい」という選択肢を与えるとみんな帰る。私だけが残ってもそれは授業じゃない。」と伝え

たかったのだが、英語でうまく伝えられず、言い返されてしまい悔しかった。特に圧の強い先生だったため、私の言いたいことを最後まで言えずに跳ね返され、誤解を与えてしまったことが納得いかなかった。3日間話し合い、お互いの誤解は解けた。先生もその後はみんなと授業をするようにしてくれたし、改善してくれた。

言いたいことがうまく伝えられず悔しかったが、互いに理解し合うことで授業はいい方向へと進んだ。常々、授業内容が簡単でつまらないと思うこともあったが、特に何も意見しなかった。面倒なことを避けたり、相手の顔色を伺うだけでなく、はっきりいうべきだったのだ。先生は授業をよくしようとしてくれるので、もっと早く伝えるべきだった。



11/2・4

マーチングバンドラスト日

とうとう大好きなマーチングが終わってしまった。ほぼ毎日会っていたみんなと会えなくなるのは寂しい。高校の部活以来失っていた青春を再び味わえて幸せだったという感謝の想いと、きっとこれが人生最後の部活なんだろうという喪失感とで感情がぐちゃぐちゃだった。最後の曲になると涙を流しながら演奏した。本当にマーチングに入ってよかった。お疲れさん会を開いてくれたり、みんなでご飯に行ったりと、演奏以外にも交流できる場があり楽しかった。



11/7

デジタルフォトグラファー

この週の課題は "Light Drawing" で楽しい授業だった。大学には簡易的なスタジオがあり、そこでライトを振り回したり、描いたりした。私はルームメイトに手伝ってもらったが、英語でうまく撮影指示ができなかった…



11/18

ホレド ZOO

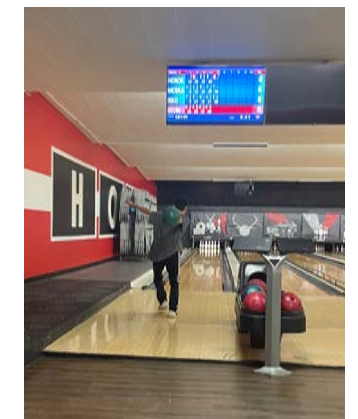
冬の動物園ではイルミネーションが定番なんだとか。というのも動物たちは寒すぎで部屋にこもり、イルミネーションでお客さんを集めているみたい。この日は寒すぎてほぼ動物は見れなかった(笑)

普段何してらぶの？

11月は飲み会が多かったような気がする。毎週末、ナイトクラブに行ったり、友達の家に行っていた。私のハウスメイトがナイトクラブに毎週行く子だったため、連れて行ってくれた。何人かのナイトクラブ友達は私たちの家に住み着いていたので、ちょく

ちょく話をするようになった。ヤンチャだけど日本人に対して優しいし、やるのが破天荒で面白い。

そして、宅飲みになると一気にお酒の量が増え、ハイになった。楽しいが、酔うほど英語が全く入ってこないし、喋れなくなる。それでもみんな誘ってくれたので楽しかった。



他にもボーリングに行ったり、映画館に行ったり、なんでもない日でも夜22:00まで学校で作業しながらみんなと喋ったり楽しかった。ルームメイトとも「もっとお話ししたい」と伝えたらお出かけしたり、寝る前に少しでも喋るようになった。みんな私の英語レベルに合わせて話してくれているのもあるが、何を話しているか理解できるようになり、楽しくなってきた。あと1週間でお別れかと思うと寂しくてたまらない。

